

優秀賞

挑戦への一步

麗澤瑞浪中学校 3年 湯浅梨乃

私には人前で目立ちたくないという願いがあつた。小学校のときも国語の教科書を読む時間では次いつ順着が回ってくるか、どの行を自分が読むことになるのかを計算しているような子供だつた。当てられると声が出せなくなるか、小さくて聞き取れない声量になり、先生が困ってしまうこともしばしばだつた。

中学生になつて制服に慣れても、その性格が変わることはなかつた。学校の特
別授業で住んでいる市の改善案などを班で話し合い、まとめて発表するというものがあつた。興味がなかつた私達グループの三人は手を抜いたスライドを提出した。しかし、なぜか選ばれ、気がつけば学年全員の前で発表することに決まつていた。さらには市長さんまでもが見に来られるらしい。さすがに手抜きのままじゃやばい！発表の日までに少しでもマシなスライドにしようと思つた。友達に借りつつ、失敗を重ねながらも必死に取り組んだ。情報に誤りはないか、レイアウトの確認、インパクトはどうか、強調するべき文字のフォントや色を変える…。雑に作つただけ直す作業は大変だつたが、とても充実した時間になつたと感じた。発表するまでの三連休の間ほとんどの時間をパソコンの前で過ごした。

最高の出来栄えにして挑んだ発表の日。緊張で午前の授業は全く身に入らなかつた。スカートのプリーツは汗ばんだ手で強く握りすぎてしまつたからか崩れてしまつている。始めの合図を横目に、大きく深く深く息を吸い込む。

「おつかれー〜!!」

初めて体感した高揚感。このままずっとこうしていたいと思いつつも、友達の声で現実を引き戻された。始まるまでの時間経過が嘘のよう。終わるまではあつてなく一瞬だつた。

私の願いは人前で目立たないことだつた。しかし、本当の願いは人前でも堂々と話せるようになりたいというものだつたと気づいた。本当の願いに気がついて三年目、この夏私は英語のスピーチコンテストに挑戦する。